

## 平成 28 年度 第 1 回学校協議会

日時：平成 28 年 6 月 16 日（木）10：00

場所：校長室

校長挨拶

委員紹介

事務局紹介

協議会委員長選出

協議

- ・平成 27 年度「学校経営計画・評価」
- ・平成 28 年度「学校経営計画・評価」の提出者名は清校長名であるが、Web 上には後藤校長名での掲載となる

昨年度末の提出からの変更点

「めざす学校像」

学力の定着 → 自身の飛躍のため

自己有用感 → 2. (2) ウ 「ありがとう」の言葉を添える

学校満足度 → 多くの学校では生徒は入学が目標であり、入学時の満足度は高い  
本校は卒業時の満足度が高い学校となるようつとめる

進路保障 → 学年ごとの指導方針ではなく、学校としての進路計画を策定する  
(現在は学年ごとの指導が中心である)

学校説明会 → 「校長」中心から「チーム成城」として行う。

(質問) ◆委員の発言 ○学校側の発言

◆ES となり、従来の生徒と様子が変わってきたように感じる。その変化も個性としてみるのか。

学校薬剤師として授業に入ることもあるが、数年前に比べ発想豊かな生徒が少なくなったように感じる。小学生も見てきたが繰り返しによる学習の定着は 2 割程度しかない。

○ES とは学びなおしの学校ではなく、基礎の必要性を感じさせる場所である。

そのために、基礎の繰り返しだけではなく、困難な課題にも挑戦することで基礎・基本の重要性を体験させる

モジュール授業は発言の機会が多く、「静かな学校」を求める生徒にとっては厳しい状況にあるという意見もある

◆ES は学びなおしではなく、学ぶ喜びを感じる学校である

ES の「成城」に入りたい → 倍率による断念

次の課題の前に現状の課題を処理する必要がある

◆モジュールの展開方法について 2 分割してはどうか

○教科及び課題の特性として 3 教科一斉授業は厳しい

6 月 30 日岡山県邑久高校へ 3 名（ジグソー法の授業研究）派遣します

- ◆高校入試制度の変更にもなって生徒の様子を聞きたい
- ◆高校入試の影響、他校も含め SC として面談が過密
  - 合格者もなぜ自分が合格したのか、友人との関係の中で自責の思いもある
  - 活発な生徒たちは特定の高校に入学しており、ES には入学していない
- 40 名授業を受け持ち、多くの生徒、多くの個性を実感している
  - 論理トレーニング（工業）では、想像したものを具体化する
  - 生徒自身を見て、教師の側からも新たな発見がある
- 家庭科の授業の中で、自分の意見を人に伝える
  - 「親の役割」を授業で行っているが、生徒に幼さがあり「伝え方」も試行している状況である。

◆小学校の学習支援での話

学ぶ楽しみを知ると自発的に課題をやってくるようになった

◆入学前に学校説明会に 3 回来た

入学前に校内の様子を見て大変気に入った

現状の学校にも大変満足している

過去（7～8 年前）に比べ、生徒が学業に非常に前向きである

工業、CS、ES 学校の継続性ありよいと思う

◆学校の様子について

- 勉強に対する苦手意識を持たないように、勉強を楽しむように方法を考えていく

生徒の変化

◆倍率の向上 → 筆圧が上がっている

成城でいい → 「成城がいい」へと変化してきた

◆地域との交流として、他校では地域のトイレ清掃を行っている学校もある

- （過去の地域連携を報告）

- ・5 年前青パトの製作、地域の小学生や保育園との野菜工場の見学など
- ・保育園児の体育祭、文化祭の見学
- ・諏訪荘との交流、市民講座など

◆ハロー赤ちゃんなどの親体験に取り組んではどうか

他者との交流

◆今後もよいものを残し、新しいものへ挑戦してほしい

◆規範意識

自転車保険の加入義務が必要になり、自転車免許（講習修了証）を検討してください

次回日程 11 月